日ロ交流

発行　：特定非営利活動法人　日ロ交流協会
E-mail:nichiro@nichiro.org
Home Page http://www.nichiro.org
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号
Tel：03（5563）0626　Fax：03（5563）0752

初めての皇居参観ツアー

山田 淳子

風薫る5月20日、初めての皇居参観ツアーが実施されました。皇居の中で現在一般に公開されているのは、(1)皇居東御苑と(2)宮殿等含む皇居施設の一部、のみとなっています。このうち、江戸城天守閣跡や日本庭園が位置する(1)皇居東御苑は手続なしに誰でも訪れることができますので、ことに桜の季節など多くの市民、旅行者の憩いの場所となっています。　今回訪れたのは、(2)宮殿等含む皇居施設の一部です。入場には宮内庁での所定の手続きが必要なため、とりわけ外国の方にとってはなかなか敷居が高い場所です。もっとも、参観希望者の増加に鑑み昨年6月より手続きの簡素化、定員の拡大等進められていますので、今後はよりアクセスしやすい名所となっていくことでしょう。

今回の協会からの参加者は、大使館から30名、協会から通訳要員として日本人5名、総勢35名でした。ツアーは他の参加者と共に宮内庁職員のガイドのもとに実施されます。土曜日午後に行われたツアー全体の参加者は、200有余名とのことでした。

はじめに宮内庁から一通りの説明が行われた後、ぞろぞろとツアーに出発です。宮内庁ガイドは1人だけ、しかも日本語オンリーなので、私たち一行は列の一番最後にかたまり独自にロシア語での説明をしながらついていきました。

主だった見所としては、①富士見櫓、②宮内庁庁舎、③皇居長和殿、④正門鉄橋があります。①富士見櫓は、明暦の大火後1659年に再建された数少ない江戸城本丸の遺構です。東御苑からかろうじてその一部を垣間見ることができるものの、美しい全容を眺めることは皇居参観ツアーに参加しなければかないません。

③皇居長和殿は、一般参賀の際に天皇ご一家がバルコニーからご挨拶をされる場所です。直線的でシンプルな建物は、ロシア人が抱く豪奢な「宮殿」のイメージからはかけ離れたものがあったようでした。④正門鉄橋は東京の名所である二重橋の正式名称で、皇居参観ツアーでは実際に渡ってみることができます。ロシア人参加者の中にもお堀の向こうからこの橋を眺めたことのある方が多く、この日は高い橋の上から見下ろす機会を得てちょっとした優越感を味わってもらえたのではないでしょうか。

ツアーの所要時間は1時間半ほどでした。この日は真夏を思わせる陽気で参加者の皆さんもお疲れになったかと思いますが、拙い説明に耳を傾けてくださり感謝しております。日本の歴史、文化を少しでもお伝えする機会をこれからも皆さんと一緒に作っていけたらと願っております。

山田さんは、下見もして参観ツアーガイドのロシア語訳をしてくれました。それを当日、参加者の皆さんにお配りすることができ、その上で大使館の方々の沢山の質問に答えてもらいました。有難うございます。(担当者)

お知らせ

●テーマ別ロシア語クラス開設
日時：2017年7月16日（日）13：00～16：00
テーマ：第2回「折り紙編」
講師：スニトコ・タチヤナ
授業料：会員3000円、一般4000円
＊毎回、テーマをしぼり、観光や文化紹介など実践に役立つ講座です。不定期に開催されますので1回だけでもご参加ください。希望テーマなどもお寄せください。

●第10回懇親ロシア語合宿
日時：2017年8月4日（金）～6日（日）2泊3日
場所：札幌大学
費用：会員19,000円、一般20,000円

●戸田港祭り
日時：2017年7月22日～23日（日）
場所：戸田港中央桟橋12：30集合
参加費：11,000円

●イワン・クパーラ祭り（スラブの夏至祭り）
日時：2017年7月22日（土）14：00～19：00
場所：三浦半島水戸浜海岸
参加費：会員3000円、一般4000円、スラブ人3500円
＊釣り、海水浴、海の幸たっぷりのバーベキューも存分に楽しんでください。

●第43回マトリョーシカ絵付け教室
日時：2017年7月9日（日）13：00～16：00
講師：菅野エレーナ
場所：田町駅みなとパーク芝浦、「リーブラ」造形表現室
会費：3,000円（5個セットの教材、講師代、お茶代含む）
＊2回目以降の参加で教材をお持ちの方は2,000円です。
＊7月9日までリーブラで作品展示されています。

お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで
Tel：03-5563-0626　nichiro@nichiro.org
＊「日ロ交流」8月はお休みさせていただきます。

日ロ交流田植え体験会に参加して

佐川　広実

私は、アウトドアなことが好きなので、またロシアの人々と交流できるという理由からこの田植え体験に参加しました。

片道約１時間の道のりで越谷に着きました。高いビルや多くの人々のいない、都会の喧騒から離れ、ゆったりとした時間が流れる住宅地の中、田植えという一つの作業に集中し、汗をかくことは、気持ちよく、自分自身とても良い気分転換になりました。また、少々苦戦しながらも田植えを純粋に楽しむことができました。田植えをしたのは小学生以来でしたが、想像以上に難しく、なかなか思うように綺麗に苗を植えることができませんでした。私たちが植えた部分と、機械で植えた部分を比べると、もちろんその差は歴然としています。今の世の中がどれだけ恵まれているのか、作業していて改めて今の生活の豊かさを実感しました。田植えは中腰で作業するので腰に負担がかかり、泥の中にいるため不安定で脚も筋力を使いました。作業時間はそれほど長くなく、短時間でしたが適度な疲労感と心地よさがありました。

今回実際に自分自身が田植えを体験し、昔の人々の生活がどれだけ大変だったか、現在自分達がどれだけ便利な物に囲まれ、恵まれた環境にあるのか、身体で感じる機会がないとなかなか思い返すことができないと思いました。毎日がものすごいスピードで過ぎ去っていく中、一つ一つ自分の手で丁寧に植えることで、自分の中の体内時間が少し通常に戻った、そんな感覚がしました。綺麗に丁寧に短時間で稲を植えることがどれだけ大変なことか、実際に体験して感じることができたのは良かったです。当たり前のように、食卓に出てくるご飯は昔、人の手で大きな手間と労力、時間をかけて作られていた。時間を短縮し、どれだけ楽に生活できるかが今の世の中の現状だと思いますが、たまには手間をかけること、遠回りしてみることは自分自身を見つめる良い機会になり、大切なことだと思いました。

ロシアの人々も多数参加していましたが、もっと多くのロシアの方が日本の文化について知る機会が増え、日本の良さを知ってもらえたらと思いました。ロシアの人々に限らず、他国の人々が日本に興味を持ってくれることは純粋に嬉しく感じます。言葉や文化が異なるからこそ、お互いを理解し合い、信頼関係が生れたら自分の考え方や視野、世界も広がると思いました。一緒に身体を動かし、食事を共にする、楽しく会話をすることがお互いの国の良さ、面白さを知る一番良い方法であり、これからどんどんそのような機会が増えてくれれば嬉しいと思いました。言葉も違う、見た目も違う、文化も違う、そんな人々が同じ空間で一緒に過ごすことは滅多にない機会だと思うのでこれからも自分自身にアンテナを張り、色々なことに参加したいと思いました。

また、田んぼアートも含め、秋の稲刈りが今からとても楽しみです。これからも、少しでも興味のあるものは積極的に参加し、色々な刺激を受けようと思いました。（社会人）

通商代表部ミニゆかた講習会

渡邉　絹江

5月25日（木）午後1時から、品川のロシア通商代表部において、手ぬぐい1枚から作るミニゆかたの講習会を行いました。これは、交流協会の新年会の席上、通商代表部のオリガさんとお話させていただいたときにお渡ししたミニゆかたから始まったものです。この時、とても可愛いと喜んでくださり、希望者への作成講習会のお話がありました。

この度、きものと仕立てに関心がありご都合のつく6人の方々の講習会となりました。教材は、見本となる出来上がりのミニゆかた、手ぬぐいの実物大の裁断図、袖の型紙、和裁用のぬい針、待ち針、木綿糸、裁ちばさみ、物差し、色々な柄の手ぬぐいを用意しました。

実際に、成人女性が着るゆかたは、巾約40センチ、長さ約12メートルの生地を、大小8枚に裁断して仕立てますが、今回は巾約30センチ、長さ約90センチの手ぬぐいを8枚に裁断して、実際のゆかたの仕立てと同じ順序で作成します。

各々好みの柄の手ぬぐいを選び、実物大型紙に合わせて裁断した後、いよいよ縫い始めます。最初は袖です。袖の型紙を使って縫い線を引き、左右の袖を縫っておきます。次は身頃です。背中、脇の順で縫い進め、縫い代の始末をします。衽（おくみ）を縫い付け、同じように縫い代の始末をします。衿を付け、袖をつけて完成です。

洋裁と和裁では用具の使い方、針の使い方などに多少違いがあるようですが、実際の女物ゆかたと同じ手順で手縫いで仕上げることができました。きものが限られた生地で無駄なくできていることを理解していただけたらとても嬉しいです。

今回は休憩も取らずに3時間半、ずっと縫い続け、完成させてくださった皆様に感謝します。細かい気配りをしてくださった山岸さん、和裁用語を通訳してくださった千葉さん、ありがとうございました。

千葉さんは引き続き日本語教室へ、山岸さんと私は見送りを受け、夕暮れの品川を後にしました。（理事）

4時までの予定でしたが、とても熱心で5時近くまで頑張り、皆さんほとんど出来上がって持って帰られました。きものは何度も縫い直すので返し縫いなどあまり細かくし過ぎない、縫い目が出ない工夫があることなど、洋裁との違いに興味深く耳を傾けておられました。女性が集まっての手作業に、楽しい雑談にも花が咲いていたようです。（担当者）

大使館付属学校内で展示会開催

千葉　麻里

5月17日（水）ロシア大使館で日頃、活け花と友禅のお稽古に励んでいる皆さんが、夏休みに入る前の作品展示会をしました。大使館付属学校のホールを借り、山岸先生の指導で大使館側生徒さん13名の活け花が並べられ、パネルには友禅の生徒さん15名と笠原先生と私の作品も飾られました。

午前中は着物を着たいという大使館の皆さんの希望で、同僚のきものの先生方、金澤、小泉、辻田、林と私の5人で、振袖や子ども、男性のきものを持ち寄って32名の方に着付けしました。

午後2時までには準備も終わり、協会会員の方々も集まってビデオ鑑賞会となりました。驚いたことに、お稽古の様子、協会で開催したバスツアーなどの写真が次々と映し出され、それに感謝の言葉が添えられていました。そして、その後に坂本さんを始め教室の先生方と着付けの先生方一人ひとりにプレゼントが手渡されました。ビデオが添えられてありましたが、その表紙についさっき撮影したばかりの着物の集合写真が使われており、素晴らしい思い出の一品になったのです。

ビデオが終わると、笠原先生により本格的な友禅の実演がありました。普段のお稽古に使用している染料は、生地を暖めたり蒸したりする必要のない簡単なものなので、伸子で

張った絹に描く様子を熱心に見たり、少しだけ体験もしていらっしゃいました。

その後、作品を鑑賞しながら大使館のご婦人の手作りのピロシキやケーキでお茶を楽しみ、最後に、今期で帰国されるイリーナさんたちと別れを惜しみました。協会のイベントに積極的に参加し協力して下さった方々で思い出も多く、寂しさもひとしおです。また、来日されますよう。

この日は、日本側24名、大使館からは約40名のご出席がありました。準備に携わって下さった皆様、窓口で大忙しのエレーナ・セルゲエワ様、心から感謝致します。（常任理事）

NPO戸田日露交流協会総会について

水口　淳

NPO戸田日露交流協会は、平成29年5月27日（土）第2回総会式典を開催しました。

総会前に162年前にプチャーチン提督他500名余がへだ号建造中にロシア人2名が亡くなり、祀られている宝泉寺でロシア正教司祭ニコライ・カツュバン様の供養を10時から予定していましたが、東名高速で事故があり遅れましたので、出席者で献花。10時30分より、道の駅くるら戸田にて開催された総会には、ご来賓としてNPO日本・ロシア協会理事長で衆議院日ロ議員連盟幹事長、総裁特別補佐を務めている西村康稔様、ロシア大使館参事官マーリン・セルゲイ様ご夫妻、外務省欧州審議官相木俊宏様、参議院日露議員連盟幹事岩井茂樹様、衆議院議員勝俣孝明様、沼津市長大沼明穂様、下田市長福井祐輔様、NPO日ロ交流協会副会長江守元彦様、富士市日ロ友好協会加藤昭夫様、日本・ロシア協会下田支部長杉坂太郎様、静岡県議会議長代理芦川豊様に祝辞をいただきました。NPO日ロ交流協会からは、江守元彦副会長と内堀専務理事にご出席いただき誠にありがとうございました。

1854年11月3日下田にて日露通好条約交渉を開始、4日に安政の大地震にによる大津波によりディアナ号は大破し航行不能となり修理地の戸田港に曳航中に現在の富士市田子の浦沖まで流され、投錨。天候が回復したので戸田港に向け曳航中にまた、強風と高波によりディアナ号は沈没しました。

下田は条約締結の地、富士市は500余名全員を救助の地、戸田村は6ヶ月程度滞在して帰国するための代船建造をしました。日本初の本格的な洋式帆船を日本人ロシア人とで初めて協力して建造したのが日本初の本格的洋式帆船です。プチャーチン提督はこの船にへだ号と命名しました。

幕府はへだ号と同型船を10隻戸田村等で建造しました。この船の建造により日本の造船業界の発展の礎となりました。プチャーチン提督は1855年3月15日にへだ号を進水し不具合のあった個所を修理し3月22日にロシア極東ニコライフスク・ナ・アムーレ港に向け48名で出港しました。残留ロシア人450余名はアメリカ、カロライン号ドイツ、グレダ号に分かれてロシアに向かいました。この時に、密航したのが掛川藩士立花ともなる人物が脱藩して戸田村の蓮華寺に来ていました。この人物が後の橘耕斎です。

戸田村には、500余名のロシア人が半年程度滞在していましたので、多くのロシア人の日常使用していた衣服や生活用品が遺品としてあります。特に、へだ号建造に必要な設計図、定規・道具等が数多くあり、戸田造船郷土資料博物館に展示してあります。その後、プチャーチン提督の子供、孫、ひ孫も戸田を訪れています。戸田地区はロシアとの友好を築いてきました。どこの地域にもない先人が培った友好の絆をさらに促進に向けて戸田地域全体で進めていきます。7月には毎年、戸田港祭りが挙行されます。初めに、プチャーチンパレードでロシア人2名を祀っている宝泉寺に行き、2名の供養祭をし、式典と餅投げ、海上花火大会で終了となります。参加希望者はご連絡ください。NPO戸田日露交流協会事務局Tel/FAX:0558-94-4256、水口 Tel:080-4520-3715　　（NPO戸田日露交流協会理事長）

カツュバン司祭（向かって左から2人目）

モスクワ「ムゼイ」巡り・その6

現代美術センター「ワイン工場」ЦСИ Винзавод

大矢 温

ソ連崩壊に続く1990年代、地下鉄クールスカヤ駅周辺は一種独特の妖気を放っていた。南方からの長距離列車が到着するクールスク駅や駅裏の薄汚れた工場群など、危険な香りに（そして路上に倒れたアル中が放つ異臭に）満ちあふれていた。空は常にどんよりと曇りほこりっぽい風が吹き抜けていた（ような気がする）。いずれにしろ、個人的にはよい印象はなかった。ところがそのクールスクのワイン工場跡地が2007年に再開発され、現代美術ギャラリーになった。新しいモスクワを代表する代表的なおしゃれなスポットの一つに生まれ変わったのだ。東京でいえばビール工場の跡地を再開発した恵比寿ガーデンプレイスのようなものか。

ワイン工場の煉瓦造りの建物を改装して10以上のギャラリーがここにまとめられている。中には素人にとっては理解不能な前衛的な現代芸術を展示したギャラリーもあるが、ポスターや写真を展示したギャラリーなら芸術の門外漢でも気楽に楽しむことができる。常設の展示のほかにも期間限定の展示があるので、ホームページで確認してから訪れるのがお勧めだ。夏の夕べには中庭でコンサートやパフォーマンスショーも催されるようなので、これもホームページでご確認を。

アートな雰囲気満点なショップが充実しているのもここの特徴だ。画材や芸術用具の専門店『移動展派』、画集やアルバムの豊富な品揃えを誇る美術書店『ファランステール』といった専門的な店舗のほかにも、「不思議の国のアリス」の雰囲気を再現したアートな雑貨を扱う『ウサギの巣穴』やアンティークなアナログレコードを集めた『33 1/3』など、ウィンドショッピングをするだけでも飽きることはない。雰囲気のよいカフェやレストランも併設されているので疲れたら休むこともできる。（札幌大学地域共創学群教授）

場所は4-й Сыромятнический пер.
(https://goo.gl/maps/FKtYoFmrK8s)
月曜休館。開館時間は12:00～20:00

オペラ「ＫＯＤＡＹＯ 光太夫」（1993年）を鑑賞して

倉田 有佳

6月半ば、1日限りの「来日ロシア人研究会」が開催された。半年振りの「同窓会」だ。この日のメインイベントは、1993年に、テレビ朝日の開局35周年記念事業の一つとして初上演されたオペラ「ＫＯＤＡＹＯ 光太夫」の鑑賞会で、脚本を書かれた青木英子さん（故人）の御子息をゲストにお迎えした。英子さんは、10年以上かけて完成させたオペラの初演は、モスクワで是非とも行いたいと考えていたが、ソ連崩壊前後の混乱で実現できなかった、と義英さんは語る。

オペラ最大の見せ場は恩人ラクスマンの娘ソフィアと日本に帰国する大黒屋光太夫との永遠の別れだ。エピソード自体はフィクションだが、ファルハング・グセイノフ作曲の「ロマンス」、それを情感込めて歌うソフィア役のワレンチナ・ツィディーポワの歌声に酔いしれた。ちなみにソフィア役以外は全員日本人で、ロシア語の歌詞は英子さんの詩をニキータ山下がロシア語に翻訳し、それを山下氏が知人の詩人の協力を得て、曲に合わせて韻を踏むよう手直ししたそうだ。

オペラは、帰国した光太夫と磯吉の江戸での幽閉生活で締めくくられたが、今では彼らが帰郷を果たしたことは、誰もが知るところである。筆者は数年前、光太夫らの故郷（現鈴鹿市）に石巻若宮丸漂流民の会のメンバーと訪れ、大黒屋光太夫顕彰会の皆さんにご案内いただいた。

光太夫の菩提寺（緑芳寺）で、光太夫がエカテリーナ二世から下賜された1ルーブル銀貨を特別に見せていただき（写真）、磯吉の菩提寺（心海寺）では、故郷滞在中の磯吉から住職が聞き取ったという『極珍書』が開示され、日本の漂流民を父に、ロシア婦人を母とした、きわめて美しい娘と「密通」したという磯吉の告白が、作家吉村昭の創作意欲を刺激し、小説『大黒屋光太夫』誕生に至った、などというお話もうかがった。だが筆者の心に強く残ったのは、伊勢白子の人たちが、故郷の土を踏んだ二人に異常なまでの関心を示しながらも、帰郷できなかった人たち、中でも根室で病死した小市を悼み、追慕したことだ。

筆者は、自らのロシア体験も相まって、故郷への思いを断ち切り、異国で生き抜いた人たちに無関心ではいられない。「ロシア革命後の在日亡命ロシア人」を研究テーマに選んだのも、1990年代初めのモスクワでは歴史研究者の間ですら日本に亡命者がいたことは知られておらず、ロシアの人たちに彼らのことを伝えなければ！という使命感のような思いから始めた。「来日ロシア人研究会」が発足する2年前のことである。

さて、オペラ初上演から25年を経た今、配役を新たに再演話が浮上しているようだ。21世紀のオペラ「光太夫」に注目したい。　（ロシア極東連邦総合大学函館校准教授）

お願い

NPO日ロ交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシアに関する講演会、在ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けております。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をよろしくお願い申し上げます。一口千円から、いくらでも結構です。
振込先：郵便口座 00160-9-66486 加入者名：日ロ交流協会
連絡先：日ロ交流協会事務局　E-Mail:nichiro@nichiro.org